

平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年2月13日

上場会社名 M-フルッタフルッタ 上場取引所 東  
 コード番号 2586 URL https://www.frutafruta.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 長澤 誠  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 徳島 一孝 TEL 03-6272-3190  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日  
 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	905	△30.0	△345	—	△370	—	△371	—
29年3月期第3四半期	1,294	△37.4	△395	—	△470	—	△468	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	△266.28	—
29年3月期第3四半期	△403.29	—

(注) 平成29年3月期第3四半期累計期間及び平成30年3月期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	2,160	125	5.6	68.47
29年3月期	2,277	110	4.8	87.87

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 121百万円 29年3月期 109百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,250	△22.8	△440	—	△480	—	△490	—	△328.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正につきましては、本日（平成30年2月13日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年3月期3Q	1,777,423株	29年3月期	1,250,166株
30年3月期3Q	－株	29年3月期	－株
30年3月期3Q	1,395,967株	29年3月期3Q	1,161,831株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(セグメント情報等)	6
(後発事象)	6
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、企業の設備投資や雇用環境の改善等を背景に景気は緩やかな回復基調にあるものの、米国大統領の政策動向や、北朝鮮など海外における地政学的リスクの高まり等の影響が懸念されるなど先行き不透明な状況が続きました。

食品業界におきましては、原材料価格の上昇や消費者の根強い低価格志向が続く等、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような環境下、当社は、主力製品のフルッタアサイーシリーズの販売に努めるとともに、「おいしい美と健康をアマゾンから」をコンセプトにアマゾンフルーツを使用したギルトフリー(砂糖・香料・着色料・保存料不使用)デザートを取り揃えたアマゾンフルーツ専門店『フルッタフルッタ アサイーカフェ 新宿マルイ 本館店』を平成29年11月にオープンいたしました。また、アスラポート・グループとの協業については、日本初量産型のココナッツヨーグルト製品の共同開発に取り組んでおり、デイリーフリー市場に新たな製品を投入し、市場開拓に取り組むこととしております。

こうした取組みを更に推し進めるべく平成29年11月13日に適時開示しました「第三者割当による新株式、第2回転換社債型新株予約権付社債及び第6回新株予約権の発行並びにコミットメント条項付第三者割当契約の締結並びに主要株主及び筆頭株主の異動に関するお知らせ」のとおり平成29年11月29日に株式会社アスラポート・ダイニング(以下、アスラポート・ダイニングという。)とマイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社に対し第三者割当増資と転換社債型新株予約権付社債および新株予約権の発行を実施いたしました。

今回の第三者割当増資により、アスラポート・ダイニングの当社株式の持分割合は、連結子会社である株式会社弘乳舎の持分も含め20%を超えることから、当社は、当第3四半期累計期間よりアスラポート・ダイニングの持分法適用関連会社となりました。引続き、当社はアスラポート・グループと協業を推し進めることで業績回復に努めてまいります。

結果として、当第3四半期累計期間の売上高は905,785千円(前年同期比30.0%減)となりました。

利益面につきましては、売上高が減少したことで利益額も同様に減少いたしました。また、引続き製品等の廃棄低減に取り組んでいるものの、一部製品の廉価販売の影響や製品在庫及び一部原材料在庫において評価損を計上したことで利益率は低下する事となりました。結果として、売上総利益は187,880千円(前年同期比34.3%減)となりました。

販売費及び一般管理費においては、売上高が低調となるなか荷造運賃発送費や販売手数料等の変動費の減少と原材料在庫等が減少したことで倉庫料も減少いたしました。また、固定費である事務所等の地代家賃についても、本店事務所の減床及び関西支社の移転により経費削減に努めました。結果として、営業損失345,607千円(前年同期は営業損失395,359千円)、経常損失は370,599千円(前年同期は経常損失470,746千円)、四半期純損失は371,724千円(前年同期は四半期純損失468,549千円)となりました。

当社は輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。事業部門別の業績は次のとおりであります。

リテール事業部門(旧NB事業部門)に関しては、当社主力製品のフルッタアサイーシリーズのCVSでの取扱いを縮小させた影響はあるものの、夏場での売上も低調となるなか、アサイー・ベーシック・ストレートタイプの復活を実施するなど売上獲得に努めたものの、結果として、リテール事業部門全体の売上高は329,655千円(前年同期比54.6%減)となりました。当第4四半期累計期間においては春夏新製品の発売も予定しており、消費者への新提案とアサイーの訴求に取組み売上高の向上に努めてまいります。

アグロフォレストリー・マーケティング事業部門(AFM事業部門)に関しては、アサイー人気が一巡したことで、売上は低調に推移しているものの従前よりご採用頂いている大手スペシャリティーコーヒーチェーンをはじめとした外食店でのアサイーデザートメニューは引続きご好評頂いております。また、アスラポート・グループにおいてはPB製品のOEM製造等により、売上拡大に取り組んでまいりました。この結果、AFM事業部門全体の売上高は302,435千円(前年同期比18.6%減)となりました。

ダイレクト・マーケティング事業部門(DM事業部門)の、直営店舗に関しては、平成29年11月に「おいしい美と健康をアマゾンから」をコンセプトにギルトフリーデザート等のメニューを展開したアサイーカフェを新宿マルイ本館5Fに出店いたしました。「美と健康」への提案とアジア諸国からの旅行者によるインバウンド効果及びインスタ映えをはじめとしたSNS等への波及によるアサイーとアマゾンフルーツの認知向上に努めてまいります。

また、渋谷ヒカリエ店についても、甘酒を使用したホットメニューの導入や販売キャンペーン等を実施することで売上獲得に努めてまいりました。

WEB通販に関しては、平成29年10月に適時開示したとおり自社通販サイトへの不正アクセスがありました。当社としては、セキュリティを高めるべく信頼性の高いカード決済代行会社の提供するリンク型システムへの移行とWEB改ざん検知サービスを導入し、WEB通販利用者に安心してご利用頂けるよう、通販サイトの安全性の確保及び向上に努めました。

この結果、DM事業部門全体の売上高は110,617千円(前年同期比13.1%減)となりました。

海外事業部門に関しては、ブラジル現地でのカカオ豆の収穫が順調に推移したことで、台湾コストコへの取引が実現したことで売上は増加いたしました。今後の取組としては、カカオ豆の増産計画を進めるとともに、アジア地域を主軸とした海外展開を図り売上獲得を図ってまいります。この結果、海外事業部門の売上高は163,076千円(前年同期は68,911千円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産に関する分析

#### (資産)

当第3四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末より116,505千円減少したことで、2,160,707千円となりました。流動資産の残高は、128,666千円減少して、2,117,435千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が164,664千円増加した一方で、原材料及び貯蔵品が182,967千円減少、商品及び製品が129,453千円減少したこと等によるものであります。固定資産の残高は、12,160千円増加して、43,271千円となりました。この主な要因は、投資その他の資産が5,685千円減少した一方で、有形固定資産が16,884千円増加したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末より131,759千円減少したことで、2,034,787千円となりました。流動負債の残高は、89,834千円減少して、1,611,669千円となりました。この主な要因は、1年内償還予定の転換社債が55,000千円増加した一方で、買掛金が94,652千円減少、1年内返済予定の長期借入金が20,896千円減少したこと等によるものであります。固定負債の残高は、41,925千円減少して、423,118千円となりました。この主な要因は、資金調達による転換社債型新株予約権付社債の発行により100,000千円増加したものの、株式への転換100,000千円及び流動負債への振替えにより55,000千円減少したこと等によるものであります。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末より15,253千円増加して、125,920千円となりました。この主な要因は、第三者割当増資等により資本金及び資本剰余金がそれぞれ191,790千円増加した一方で、四半期純損失の計上により利益剰余金が371,724千円減少したこと等によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、前回発表(平成29年11月13日「平成30年3月期 第2四半期決算短信」)の予想数値を変更しています。詳細につきましては、本日(平成30年2月13日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	397,418	562,083
売掛金	145,105	124,805
商品及び製品	327,091	197,638
原材料及び貯蔵品	1,363,863	1,180,896
その他	12,622	52,012
流動資産合計	2,246,102	2,117,435
固定資産		
有形固定資産	—	16,884
無形固定資産	—	961
投資その他の資産	31,111	25,425
固定資産合計	31,111	43,271
資産合計	2,277,213	2,160,707
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	198,972	104,320
短期借入金	1,298,591	1,283,300
1年内償還予定の転換社債	—	55,000
1年内返済予定の長期借入金	116,902	96,006
未払法人税等	5,461	3,371
その他	81,577	69,671
流動負債合計	1,701,503	1,611,669
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	155,000	100,000
長期借入金	273,200	293,300
資産除去債務	8,949	8,970
その他	27,893	20,847
固定負債合計	465,043	423,118
負債合計	2,166,547	2,034,787
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	461,515	653,305
資本剰余金	500,000	691,791
利益剰余金	△851,663	△1,223,387
株主資本合計	109,852	121,708
新株予約権	814	4,211
純資産合計	110,666	125,920
負債純資産合計	2,277,213	2,160,707

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	1,294,430	905,785
売上原価	1,008,558	717,904
売上総利益	285,871	187,880
販売費及び一般管理費	681,231	533,488
営業損失(△)	△395,359	△345,607
営業外収益		
受取利息	54	18
為替差益	1,631	—
受取手数料	556	325
その他	962	226
営業外収益合計	3,205	570
営業外費用		
支払利息	16,195	19,466
為替差損	—	422
デリバティブ解約損	54,606	—
その他	7,789	5,672
営業外費用合計	78,592	25,562
経常損失(△)	△470,746	△370,599
特別利益		
固定資産売却益	12	648
特別利益合計	12	648
税引前四半期純損失(△)	△470,734	△369,951
法人税、住民税及び事業税	1,841	1,773
法人税等調整額	△4,026	—
法人税等合計	△2,184	1,773
四半期純損失(△)	△468,549	△371,724

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年11月29日付で、アスラポート・ダイニングから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ99,995千円増加しております。また、転換社債型新株予約権付社債に係る新株予約権の行使に伴い、資本金及び資本準備金がそれぞれ50,000千円増加しております。また、新株予約権の権利行使による新株式発行により101,500株増加し、資本金及び資本準備金がそれぞれ41,795千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期会計期間末において資本金が653,305千円、資本剰余金が691,791千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(後発事象)

該当事項はありません。



### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度から継続的な営業損失の発生により、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、当該状況を改善・解消すべく取り組んでおります。

資金面に関しては、平成29年11月29日を払込日としてアスラポート・ダイニング及びマイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社より、第三者割当増資と転換社債型新株予約権の発行により資金調達等を実施いたしました。また、既存取引銀行との間においても、継続的な支援が得られるよう良好な関係を築いており、当面の資金繰りについては問題ないものと考えております。

業務面に関しては、アスラポート・グループ傘下の乳業メーカーと当社とでココナッツ・ヨーグルトの製品開発を進めており、日本初の量産型ココナッツヨーグルトの発売により、デイリーフリー市場の開拓を進め業績回復に努める事としております。また、当社主力製品のフルッタアサイーシリーズ並びにアマゾンフルーツやアマゾン産胡椒等の商材についての提案にも積極的に取り組むことでアスラポート・グループをはじめとした外食チェーンや日本国内メーカーへの販路拡大も図ってまいります。また、海外事業展開を進めることで、資金繰りが悪化した要因ともなっていたアサイーの原材料在庫の更なる資金化を推し進めることで、営業キャッシュ・フローの改善と、引き続き経費削減に取り組む業績回復に努めてまいります。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。